1. ストライキと乗客
2. 本四架橋を正しい判断で
3. 天災と人災の間
4. 受験寸景

マンスリートピックス

1. 3月 23 日は国立大学第2期校の入試の始まる日であったが，この日をわざわざねらったものかどうか国鉄ストが行なわれ，多くの真執な学生に不必要な苦労を与えたようだ。毎年，年中行事のように行なわれる争議の一種であるが，今年もまた行なわれた。しかも，始発直前に組合本部では妥結し，スト解除指令を出しているのである。国鉄のような大きな組織では，始発直前に妥結しても，これが下部に徹底し，平常ダイヤに復するのにどのくらいの時間がかかるかは，国鉄当局や組合が最もよく知っているはずであり，また一般利用者はこの点にははなはだ暗いのである。いつも思うことであるが，利用者には多大な影響をおよぼしても，始発前に妥結した場合は，国鉄はストを行なったことにはならないのであろうか。つねに組合も当局も合法を装っているに過ぎないのではないだろうか。この際望みたいことは，せめて妥結を発表する際には，その後 30 分単位ぐらいの間の電車の運行率をぜひ同時に知らせるべきではないだろうか。 [C]

2. さる2月 27 日に本四連絡橋の淡路ルート，備讃ルート等の工費，工期が発表された。今後の経済効果の算定結果をまって，今年中にも着工順位が決まりそうな情勢にある。在神経済界をはじめ地元関係団体が熱心に政府関係者に働きかけているためか，閣議でも一見関係のないような閣僚まで熱心に発言したように報道されている。最近の公共投資のうちには，地域開発の美名のもとにその投資効果に対する真剣な検討がなされてないようなものもある。このような大型の国土計画的な工事のプロジェクトが地方政治家的な判断で決定されないように切望するものである。この橋の全工事費は2000～4000億円と発表されているが，この投資額は車両費等を含めた東海道新幹線の全工事費に匹敵するものであり，われわれとしてはこの橋の建設によって，同程度の便益を得るものと期待してよい。今後の経過にきびしい監視を行なうべきである。 [S]

3. 昨年7月9日の西日本集中豪雨で 21 人が生うめになった神戸市市ケ原の山津波の原因について，鑑定結果がようやくまとまったようである。くずれたガケの頂上にあるゴルフ場の工事設計あるいは施工がこの惨事の原因となったかどうかが鑑定の焦点になっている。この結果は刑事責任追求のきめ手になるだけでなく，今後の補償問題など影響するところは大きい。いずれにせよ，裁判に持ちこまれるものと思われるが，天災か人災か，そのなりゆきは遺族はいうまでもなく，土木技術者にとっても関心が深いところである。さきに昭和 36 年の梅雨前線豪雨によって宅地造成地に被害があり，これを契機として宅造等規制法などの制定をみた。住宅問題，宅地問題の解決のために，今日なお，各地において大規模の造成工事が進められている。工事関係者が苦しい経験を教訓として，この種の災害がふたたび新聞やテレビをにぎわすことのないよう努力されることを祈りたい。 [J]

4. 私用公用で上京される先生方が，3月はどこのホテルも満員でいささかあわてておられた。満艦飾の教育ママに連添われた受験生諸君に常宿を占拠されたものらしく，子を持つ親としての同情もあるのかいささか憮然とした表情であったという。この風景，東京はもとより大学を持つ全国のまちではもう当り前のことと聞くが，角帽と一緒にヘルメットを売る大学前の売店とともに平和なとやっかみたくなる3月ではある。しかし，この受験戦争を無事くぐり抜けられた者が，将来の日本の指導者層を形成するであろうことを考えると，いささか我田引水的な感覚ではあるがつぎのようなことに気付く。すなわち，その中のより優秀な卵を土木畑に引入れるべきであることと，そろそろそういう意味でのスカウト戦を正しいルールにしたがって始めるべきではないかということである。いかがなものであろうか。 [E]

■お知らせ

第 53 巻第1号から同3号までの本欄の執筆者は，下記の4君でした。本号から，新しい執筆者が担当します。

J 粟谷陽一，S 及川 陽，C 石井弓夫，E 事 務 局